

第9回 IT を活用した教育センターワークショップを終えて



昭和大学歯学部 歯学部 片岡 竜太

平成24年度に採択された文部科学省の大学間連携共同事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成プログラム」も5年目に入りました。皆様のお陰で第1段階（3年生）：eラーニング教材を活用した「全身と口腔の関連についての基礎知識の修得」、第2段階（4年生）：VP（模擬患者）システムとeラーニングを活用した「臨床推論・コミュニケーション能力の養成」、第3段階（5年生）：「臨床実習（大学付属病院歯科口腔外科実習と地域歯科医療実習）における応用」もそれぞれ順調に運用されています。

6月23日に、昭和大学旗の台校舎において、52名が参加してワークショップ（WS）を開催しました。今回は授業を直接担当していない歯科医師会や大学教員に、WS前に実際にIT教材を閲覧してもらいました。閲覧後に記入していただいたアンケート結果をまとめてWSで紹介し、それを基にディスカッションを行いました。

セッション1の大学教職員セッションでは、IT教材を活用した授業準備・運営法を確認し、徹底しました。セッション2では2035年問題を弘中教授に紹介していただき、今後学ぶべき課題について提案をしていただきました。多職種連携の必要性とそれに必要な知識や能力を身につけるべきであるという意見が多く聞かれました。セッション3では、現在3大学がそれぞれ歯科医師会と協働して行っている地域医療実習の改善策が提案され、大学教員と歯科医師会の先生方との密な連携が必要であることが確認されました。実習前の準備教育としては知識のみではなく、態度教育が重要であるという意見が出ました。生涯学修への継続としては、まずは研修医向けの教材を作成してみることが提案されました。

本取組が、社会のニーズに対応できる歯科医師を養成することにより歯科界の明るい未来を築く一助になればと切望します。

最後になりましたが、忙しい時期にもかかわらずご参加いただいた各大学および歯科医師会の先生方、そしてワークショップの運営にご尽力いただいた協力IT企業、ならびに各大学の事務関係者に心から御礼申し上げます。